

<p>〈ひとことアピール〉</p> <p>民族文化広報と現地での収入向上のためティナラク織及びビーズ製品などの販売を推進中です。バザーなどイベント参加の機会がある方はご一報下さい。なお、先日使用済カードを換金5,346円になりました。ありがとうございました。</p>		<p>2003年10月22日発行</p> <p>NPO法人ビラーンの医療と自立を支える会 227-0033 横浜市青葉区鴨志田町516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@r07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/ メールアドレス・HP変更しました</p>
---	---	---

「ビラーン」の「医療」と自立を支える会の名称と活動実態

「会の名称を変えたほうがいいのか?」日比谷・横浜、二つの国際協カイベントを終えた10月17日、広報担当九島さん宅に事務局ボランティアスタッフ4名が集まった時出た意見です。確かに今年はチボリ民族のティナラク織に焦点を絞ったため、これらの展示即売品と会の名称との関係についての質問が多かった気がします。

発足して7年、対象や活動内容が多様化して、会名称が必ずしも活動実態を示したものではありませんでした。参考までに、かかわる民族や活動分野の現況及び会名称を決めた経緯を書いてみました。

〈民族〉 CMB を通じて医療支援をしているコミュニティー12地域は、そのほとんどがビラーン民族の村（一部はチボリとビラーンが半々）です。一方、昨年6月少数民族里親の会(FOT)から引き継いだブラクールはマノボ民族が多く、レイクセブ町で実施したティナラク織研修やモスン教育事業の対象者はすべてチボリ民族です。昨年度の母と子のコミュニティースクール事業実施によってモロ民族の女性たちとの協力も始まりました。

〈活動分野〉 予算では人材育成に次いで医療が多くなっていますが、8月末に緑の募金助成が決まったため、決算の段階では、今年は環境保全が2番、医療は3番になる予定です。薬草利用奨励などお金のかからない医療を推進し、簡易水道建設やヘルスワーカー育成にも力を入れているため、医療そのものの支援は今後も減らせそうです。

〈会の名称〉 1996年、ビラーン民族の優れたリーダーがいて住民の組織化が進んでいるとして案内されたサムラングで、ニーズの高い医療支援から始めたので、「ビラーン族の医療を支える会」としました。建設したクリニックは、医療拠点というだけでなく、経済的に自立するためのセンターという意味で Klawil Gutnga（ビラーン語のライフセンターの意）と名づけられ、組合組織の動きが出た1年後、会名称にも「自立」を入れて現在の名称となりました。

事務局会議の結論は、すでに NGO や関係機関の間でビラーンの会として定着してきたからこのままでいいのではということになりました。初めての方は「ビラーンって何?」とまず聞いてくれます。「医師を派遣する会?」もよく受ける質問です。現会名は、ミンダナオ先住民族のことや私たちが医療支援で何をめざすかを伝えるきっかけ作りになっているようです。皆様のご意見お待ちしております。（事務局・山崎）

現 地 短 信

- * **CMB 医療報告 7-9 月分**：キアミと隣のシラルに相変わらずマラリアが多く（6名）、コレラ、デング熱も各1名いました。キアミは昨年、シラルでも今年初めに国際開発救援財団(FIDR)の助成による念願の水道が完成し、乾季でも各種野菜栽培が可能になりました。衛生・栄養改善による疾病減少に期待したいと思います。
- * **ノララ町ティナゴの40戸が傾斜地農法に挑戦（緑の募金事業）**：土壌浸食が進むロハス山系先住民族の村で、PFP 及び政府機関専門家の指導により、等高線状に土留め用灌木の種を播き、マホガニーや果樹苗、さらに自給用根菜類を植えるという傾斜地農法によるアグロフォレストリを実施中です。
- * **溶接・電気配線・車整備・家事全般**：中途退学者など60名対象に毎土曜日6ヶ月間の技能研修が新潟県国際交流協会(NIA)の助成で始まりました。40年間ビラーンの教育を支えてきて今は閉校したボール校舎が研修会場です。
- * **106羽の鶏のうち98羽が育ち、50羽が卵を産み雛が孵りました**：P2で報告のモスン教育現場からの情報です。土地問題も法廷に移されて、教師による推移報告は子どもたちの生きた教材になっています。